

公明党の自立路線時代(15)

平野 貞夫
元参議院議員

リクルート国会で悩む公明党

1989 (平成元) 年2月23日朝日I記者の池田克也衆院議員(公明)のリクルート疑惑情報を、権藤恒男衆院議員(公明)に伝えたところ、リクルート国会の対応に悩む公明党の話になる。

○平野 文部省ルートで池田さんは、1985 (昭和60) 年6月19日に、リクルート応援の質疑をやつてい

る。

○権藤 逮捕されるのか。

○平野 展開によっては厳しい。

○権藤 マスコミで叩かれるし、国会運営で妥協しにくくなる。それに矢野委員長の名電工事件でも頭が痛い。マスコミの対応も心配だ。

○平野 中瀬古の裁判が始まれば書くだろう。

○権藤 2月11日の夜、書記長・副書記長・政審会長・国対委員長、それに私が入って激論だった。結論らしいものはない。学会も表向き矢野委員長を守ろうということだが、実際は複雑だ。

○平野 そんなことをいつても、中曽根前首相の証人喚問で社・公・民一致したでしょう。それが決まるまで、総予算の衆議院通過には応じないとなる。自民党は中曽根喚問に応じませんよ。総予算は衆院を通らず、強行採決もできず……おかしなことになりますよ。

○権藤 そこで何か智恵はないか。

衆院予算委員会は、平成元年度総予算を2月末になつても議了する見通しがつかない事態となる。同月27日、中曽根康弘前首相は記者会見して、リクルート社

との疑惑に関係ない旨の発言を行った。予算委員会は紛糾し、野党側は中曽根証人喚問を強く要求した。自民党内では「中曽根喚問」をめぐって抗争が始まり、竹下総主流派体制が崩れ始める。

3月に入り、6日にはNTTの真藤恒会長が逮捕された。スーパーコンピュータの購入疑惑で、中曽根首相へ検察は方向を定めたとの見方が強くなる。13日に各新聞は、中曽根前首相の側近である藤波孝生前官房長官の疑惑をいっせいに報道する。逮捕許諾もありうるとの情報があり、事務局として準備をすることに

なる。

14日、宮澤喜一事務所の安藤仁氏から、法務省サイドの情報として「最も大きな動きなるものとして中曽根逮捕もありうる」とのこと。さらに、竹下登首相の波多野首相秘書官から「中曽根逮捕で竹下政権を続ける図上プラン」とこれからの政局展開シミュレーションを依頼され、資料をつくる。

17日午後6時に、権藤議員からの要望で赤坂の、以津みで会う。リクルート事件の捜査と政局の展望を説明してくれとのこと。「竹入前委員長からも、矢野・大久保体制では不安なので、心して対応するよう

に言われた」とこぼしながら、重大な話が飛び出した。「お願いがある。創価学会幹部が、これからの政治がどう動いていくか、直接平野君の意見を聞きたい」とのこと。断ったところ、どうしてもとのこと「私と同世代の実務のわかる人なら」とのことであうことになる。

創価学会秋谷会長政治担当秘書との会談

3月20日午後6時からキャピタル東急ホテルで、秋谷栄之助創価学会会長秘書の中上政信氏と二人だけで会談。要旨は次のとおり。

○平野 権藤さんから話があつて、気が進まなかつたが、ぜひということできた。私からどんな話を聴きたいのか。

○中上 学会も公明も4月以降の総予算の審議がどうなるか、リクルート問題で池田克也をかかえ捜査の情報すらすらかめず、どうしてよいかわからない。全体的な見通しの話を。

○平野 役人の立場でなく、一人の国民として意見を申し上げたい。

まず、状況が読めない時、気を付けるべきことは

「表向きの建前」と「裏向きの腹」をいつまでも矛盾したままにしておく、国民からシッペ返しを受けることだ。私だって4月になって国会がどう展開するか読めない。こんな時、政治の動きにどう対応するかよ、逆にも、公明がどう動くかで状況をつくるべきだ。社・公・民の中でイニシアチブを握ることをかんがえてはどうか。

○中上 池田克也問題があり、そう積極的になれない。

○平野 それがあるから早く腹を決め処理すること。そして公明の自立性を見せることだ。

○中上 検討してみるが……。事態を読むヒントについて意見を聞きたい。

○平野 目先の4月5月をどうするかを考える時、2・3年先の政治展開がどうなるかの発想をすると、現実対応のヒントになる。情報だと、社会党の石橋前委員長は社会党と民社党の統一を考えているようだ。数年のうちに選挙制度が「小選挙区比例代表制」に改正される前提の話。政党の流動化が始まるわけだ。竹下首相が後藤田自民党選挙制度会長に要請した政治改革への動きなんか、公明は注目しておかないと、2・

マになる。

○平野 さらに消費税制度の欠陥問題も放置できない。公明党が主張した「福祉基本法制定要求」も国民生活にとつて大事なこと。いつまでも「中曽根喚問」にこだわるべきでない。「攻撃をしながら政権を支える」作戦には限界がある。2・3年先の政治流動化に対応できなくなりますよ。

○中上 私も、会長秘書のままで、第二部長になりました。ここでは政党・政治担当ということで、当面の問題もさることながら、将来にわたつて党のあり方を研究する立場ですので、今後ともよろしく願います。

以上が私と学会実務者との会談要旨である。この会談が、創価学会を通じて公明党の自立化を促進する出発点になった。しかし、リクルート問題と中曽根喚問、竹下首相自身のリクルート社との関係が表面化するにつれ、国会の混迷は收拾がつかなくなる。

政局は竹下首相と中曽根前首相の権力闘争となる。竹下側に付く安倍晋太郎幹事長に中曽根側は、嫌がらせに安倍夫人が、リクルート社関係から顧問料をもらっていたとマスコミにリークするなど、自党内は泥

3年先には手遅れになりますよ。

○中上 そういえば連合が「小選挙区比例制」の研究で、西独に調査団を出した話を聞きました。リクルート事件は、貴方の言うように政治の流動化を起こすことになるんですね。

○平野 いま自民党で検討しているのは、リクルート事件への反省で、政治資金の規制さらに根本原因の選挙制度改革です。実は自民党が気がついていない問題に政治倫理がある。これはロッキード事件の反省として、1980（昭和60）年に「政治倫理綱領」や「行為規範」、「政治倫理審査会」を発足させた。

この制度をつくった中心人物は、当時の議運委員長で現内閣官房副長官の小沢一郎、もっとも協力したのは公明党議運理事の権藤恒夫。事務局でまとめたのは私でした。三人のコンビはこの時にできた。

公明党が政治倫理という入口から、政治改革で野党の先頭に立てば、池田克也問題の反省という点でも世論も納得する。

○中上 公明は信仰を大事にする人間の政党ですから、個人の政治倫理を大事にすることから、学会下部に説明しやすい。竹下政権に側面協力をしやすいテ-

仕合が本格化する。

4月21日の与野党幹事長書記長会談が、中曽根証人喚問で決裂し最悪の事態となる。同日竹下首相の要望で「政局展望」のメモを届ける。「何が起るか読めない時、大本教の出口教祖の言葉が参考になる。人事を尽して天命を待つでは悟りが足りない。人事を尽して天命に遊ぶ心境となれ」と書いておいた。

翌22日「竹下事務所は江副氏から5千万円借りていた」との報道がある。翌23日竹下首相と私の連絡役の早坂茂三氏から電話。「竹下首相からの伝言だ。何回も貴重なメモを貰い感謝している。人事を尽して天命に遊ぶ心境で、事態收拾に入る」とのこと。25日午前10時、小沢副長官から電話。「内閣総辞職だが総予算を衆院通過した後か、参院で成立させた後か。議論をしているが、法規慣例上どうか」。私は「政治判断の問題。竹下首相に判断させるべきだ」と答える。

同日午前11時30分、竹下首相は「総予算の成立を果たし、政治責任を取って退陣する」と表明。同日与野党は、中曽根喚問を条件に予算委員会の審議再開を合意。公明党は池田克也問題をかかえ、困り果ててしま